

令和4年度 松井小学校 学校評価シート

| 学校教育目標 | | 本年度の重点目標 | | | 令和4年度 学校満足度(保護者) | |
|--|------------------------|---|-----|------|---|---|
| いのちと人権を大切に、こころ豊かでたくましく生きる児童の育成 | | 1 深い学びへとつながる対話的な授業の創造 2 笑顔であいさつができる子の育成 3 自分も相手も大切に 思いやりの心あふれる子の育成 | | | 学校満足度:3.72 (4段階評価) | |
| 学校自己評価【A:達成している(3.2以上) B:おおむね達成している(2.8以上) C:あまり達成していない(2.4以上) D:達成していない(2.4未満)】 | | | | | 学校関係者評価 | |
| 観点 | 項目 | 取組(達成)の状況 | 評価 | 総合評価 | 課題と改善方策 | 学校自己評価及び改善方策の適正さの評価 |
| 確かな学力の育成 | 学習規律の徹底 | 家庭学習習慣の定着に向けて、年4回の家庭学習強化週間を設定して、1週間の家庭での過ごし方を記録させ振り返る取組を行った。授業研究として、教員一人1回の授業公開をして授業力向上を図った。学校サポートボランティア(図書ボランティア)を募集し、図書室環境を整えたり、教員やお話サークル、図書ボランティアによる読み聞かせを行い、読書への意欲付けを行った。 | 3.1 | A | 全国学力学習状況調査の結果分析より、問題の読み取り力が弱いこと、計算や漢字のケアレスミスが多いことが明らかになった。そこで、計算力強化のために算数授業の冒頭5分間にミニ計算練習を取り入れ、簡単な計算の繰り返しをさせている。読み取り力の強化に向けては、次年度より朝学習に読解カトレーニングを取り入れ、強化を図っていく。家庭学習の定着は、保護者アンケートでは学校の働きかけを十分評価してもらっているが、家庭との連携という部分での取組を強化して、その定着を図っていきたい。 | 学力向上には、国語力の向上がカギになると思います。音読をする機会を増やしたり家庭での読書活動を推進するなど、いろいろな活動を通して読解力をつけていくことは大切です。読書活動推進へ向けて、保護者への啓発活動の展開が必要だと考えます。 |
| | 基礎学力の向上の取組 | | 3.7 | | | |
| | よりよい授業の展開 | | 3.4 | | | |
| | 家庭学習習慣の定着 | | 3.1 | | | |
| | 読書活動の充実 | | 2.9 | | | |
| 豊かな心の育成 | 道徳実践力の育成 | 道徳の授業は、年間指導計画に基づきていねいに実施できている。毎月いのちと人権の集会では、人権に関する講話を聞いたあと、感じたことをプリントに書かせ蓄積する取組を始めた。あいさつの活性化に向けては、児童会、生徒指導委員会、校長講話と連携してその強化に取り組んだ。 | 3.3 | A | 道徳授業では、感じたことや思ったことをできるだけ多くの児童に発表させ、多様な価値観に触れられるように展開した。内面的資質を高める授業であるため、児童の考えにゆさぶりをかける問い返しで、さらに考えを深めさせる授業を展開する必要がある。道徳の学習が生活や将来に生きて働くものになるよう、引き続きいねいに取組を継続していく。 | 松井小学校の児童は、「死ね」「殺す」という言葉をあまり使いません。引き続き、ていねいな指導をお願いしたい。 |
| | 教育活動全体を通じた指導 | | 3.4 | | | |
| | 道徳実践の表出 | | 3.1 | | | |
| | あいさつ運動の取組 | | 3.0 | | | |
| | | | 3.2 | | | |
| 健やかな体の育成(体育) | 基本的な生活習慣の定着 | かけ足訓練や縄跳び運動週間では、目標を設定させることで体力・運動能力向上を図った。また、コロナ感染防止に努めながら、3年ぶりに水泳指導を実施した。運動会は、猛暑を避け10月開催とした。 | 3.0 | A | 運動会では、体育授業での取り組み(バトンリレーやダンス)を大変意欲的に発表することができた。今後も自己目標を立たせた取組で能力向上を目指す。3年ぶりの水泳では、今までの積み上げがないことに加えて、授業時間制限や暑さ指数による授業中止があり、学年に相当する水泳能力の向上につなげることができなかった。 | 水泳授業は、プールの稼働時間に比べて、維持費がかかりすぎていると感じる。また、天候に左右されず、計画通り水泳授業を実行する観点から、温水プールを活用した授業に切り替えてもいいのではないかと。 |
| | 体育の授業を通じた体力・運動能力の向上 | | 3.4 | | | |
| | 体育的活動や行事を通じた体力・運動能力の向上 | | 3.3 | | | |
| 健やかな体の育成(保健) | 適切なケガの処置や対応 | ケガが発生した際に養護教諭を中心とした適切な処置や組織的な対応を検討しており、ケガや体調不良等の状況により、速やかに保護者や病院につなぐことができている。伝染病の発生時には、校医と連携して予防措置がとれた。保健だよりでは、健康に関する情報周知を図った。 | 3.7 | A | ケガや熱中症予防に関して、生活のルールや約束について随時指導を入れて予防に努めることができた。食に関しては、栄養教諭や地元農家さんによる対面での授業を再開し、食育を展開することができた。また、ていねいな給食指導も重なり、ほとんど食缶を空にしている。この給食の残菜量の少なさから、給食センター表彰を受けた。今年度の取組を継続する。 | 保護者要望にもあがっていたように、給食当番のエプロンが傷みすぎているので、更新を進める方がよい。 |
| | 適切な給食指導 | | 3.6 | | | |
| | 適切な食育指導 | | 3.2 | | | |
| | 健康増進のための家庭への呼びかけ | | 3.7 | | | |
| 学級経営の充実 | 学級経営案を生かした学級経営 | 学級経営案を作成しPDCAサイクルにのせ、好ましい学級集団の形成を目指した。児童が担任に相談しやすい環境を作ることで、個々が抱える問題に寄り添う指導を心掛けた。 | 3.4 | A | 担任と指導補助員の複数体制で学級指導を行っているため、各教室がそれぞれの児童にとって居心地のよい場所にすることができている。ただ、引き続き児童理解や実態把握についてはアンテナを高くし、ていねいに傾聴することで、児童からの信頼を高め、安心できる学校づくりにつなげていく。 | 町費による学習補助員等の配置が充実して、複数体制で指導できている。引き続きこの体制を維持してほしい。 |
| | 好ましい学級集団の形成 | | 3.1 | | | |
| | 児童理解・実態把握 | | 3.7 | | | |
| いじめに対する取組・指導 | いじめの未然防止・早期発見 | いじめの早期発見に向け、いじめアンケート(学校生活相談シート)を児童用を年間5回、保護者用を年間3回実施した。問題行動発生時には、その対応について組織的に検討し、速やかに事実確認を行い、保護者と情報共有を図った。また、年2回のストレスチェックを行い、児童と全員面談を行い児童理解に努めた。 | 3.9 | A | 保護者評価の結果から、学校の情報収集に3.5、学校の対応にも3.5(4段階評価)となっていることから、学校のいじめへの取組が評価されていると言える。しかし、いじめはいつでも発生しうるものであるため、教職員がいじめの見落としをしないように定期的にいじめについての職員研修を実施していく必要がある。 | 情報は、後手に回るとこじれることが多い。教員同士、教員と保護者間の情報共有は、早め早めにするのが大切である。 |
| | 適切な指導 | | 3.6 | | | |
| | いじめをしない心情・態度の育成 | | 3.2 | | | |
| | いじめを許さない心情・態度の育成 | | 3.2 | | | |
| 特別支援教育の充実 | 保護者との共通理解 | 個別面談等により、保護者の意向を踏まえた支援・指導を行った。サポートファイルを活用し、指導内容の引き継ぎや保護者との連携が図れている。通級指導は、継続的に自立活動を支援できた。 | 3.6 | A | 特別支援学級においては、個々の特性に応じたていねいな指導ができており、それぞれの能力をしっかりと伸ばすことができている。交流学級での活動については、両学級担任の打合せをもう一歩密にする必要がある。どの教室においてもユニバーサルデザインをさらに意識した教科指導や生活指導を図っていきたい。 | どの児童にもわかりやすく、非常に細やかな指導が展開されていることに安心した。 |
| | 個別の指導・支援計画と合理的配慮の適切な実施 | | 3.4 | | | |
| | 目的に沿った交流学習の展開 | | 3.0 | | | |
| 防災・安全教育の充実 | 適切な防災・安全指導 | 避難訓練は、水害、火災、地震の3種を想定した訓練を実施した。3学期の地震避難訓練では、休み時間に実施し、担任引率ではなく児童個人の判断で避難させる形をとった。交通安全教室は、低学年も校外で実施し、より生活に役立つ学習となった。 | 3.9 | A | 交通安全教室は、次年度からも全学年が校外で実習する教室を展開する。また、学期に1回の避難訓練も継続して実施し、危険を予測する力の育成に取り組みたい。校内で負傷する児童数が減少している要因として、ケガ予防のための校内ルールの徹底や予防行動の指導が効果的であったため、継続していく。 | 実生活に役立つ訓練であるべきなので、今年度の取組を継続していくべきである。 |
| | 安全な生活習慣の定着 | | 3.4 | | | |
| | 校内安全点検の実施 | | 3.5 | | | |
| キャリア教育の推進 | 身につけさせたい能力・技能を意識した指導 | 学級や児童会、委員会での役割意識を持たせるよう指導を行った。異学年交流を行い、社会性や自己有用感の高まりに取り組んだ。 | 3.5 | A | これまでの取組に加え、授業や交流など様々な活動を通して人間の形成や課題への対応能力、自己管理能力を習得する機会を設定する。 | 学年を通り越してみんなが仲良しであることは、松井小学校の強みである。異学年活動を通して、子どもの能力を向上させてほしい。 |
| | 役割や責任を持たせた適切な指導 | | 3.5 | | | |
| ふるさと多可町を愛する子どもの育成 | ふるさと教育の推進 | 生活科や社会科で、ふるさと多可町を知る学習を展開した。4年生では、百日鶏の給食に合わせて地元養鶏農家さんの特別授業を実施した。3学期には、4年生以上で多可町ふるさと検定を実施した。 | 2.5 | C | 各教科・領域のそれぞれの学習で多可町についての内容を教えているが、教師にふるさと教育を行っている認識が低い。そのため、地域教材・社会科副読本・ふるさと検定の解説等を各教科・領域等と関連付けたふるさと教育カリキュラムを作成する必要がある。 | 評価及び改善方法は適正である。 |
| 環境美化 | 児童の美化意識の向上 | 掃除指導は、掃除週間の実施や児童会でのポスター作成、放送での呼びかけを行った。学校ボランティアによる校内除草作業を行った。 | 3.1 | B | 時間いっぱいもくもく掃除を目指しているが、監督教員が不在になると適当な作業をしたり早めに終了したりしている。やらされている感からの脱却を図る必要がある。 | 児童数の減少により、十分に掃除が行き届かない場所があること理解できる。プール横の外トイレや体育館トイレは改修が必要であるが、まずはペンキを塗り替えるなど明るい場所にならないか。 |
| | 校内の環境美化 | | 3.0 | | | |
| 組織力・チーム力の向上 | 学校経営方針の周知と同一方向への推進 | 教育活動を進めるに当たって、職員会議や職朝・職夕(各週1回)、校務支援システムの活用により教職員の共通理解を図った。 | 3.6 | A | 行事の運営や保護者の要望等、教職員の中で課題について意見交流し共有して取組を進めることで、組織力を高めることができている。 | 評価及び改善方法は適正である。 |
| | 全教職員の共通理解のもと教育活動の推進 | | 3.7 | | | |
| 開かれた学校・信頼される学校づくり | 学校情報の発信 | 学校だよりの毎月発行、ホームページのこまめな更新により情報発信に努めた。児童に関する情報は、即日に保護者連絡を入れている。保護者からの要望にも、素早い対応を心がけた。 | 3.8 | A | 学校行事の保護者公開を再開したり、参観日のネット中継や運動会等では入場制限を廃止したりして、コロナ禍で可能な最大限の緩和措置を行った。コミュニティ・スクールの取り組みを始め、学校ボランティア募集が始まったが、ボランティアの裾野を広げる協働取組が必要である。 | ホームページは、閲覧者から見に行く必要がある。インスタを利用して画像をアップすれば、タイムラインに反映されるのでより多くの保護者に情報提供できる。一度検討してみてもどうでしょうか。 |
| | 保護者への連絡 | | 3.9 | | | |
| | 保護者・地域の要望への適切な対応 | | 3.4 | | | |
| 教職員の資質向上 | よりよい授業づくりのための教材研究 | 外部講師招聘による授業研究等を年4回実施し、授業づくりの研修会を実施した。教員のタブレット活用技能を高める講習を実施した。 | 3.4 | A | 引き続き教員の授業力向上を第一優先にして、OJTや職員研修により資質向上に努めていきたい。タブレット技能やプログラミング教育への研修も継続して実施していく。 | 評価及び改善方法は適正である。 |
| | 指導力向上に役立つ研修内容 | | 3.9 | | | |
| 教職員の心身の健康保持 | 勤務の適正化と定時退勤日の実施 | 毎週木曜を定時退勤日とし、お互いの呼びかけ等により、9月以降は完全実施できている。校務分掌は適正に振り分けを行っており、職員の協働意識も高い。職員室は風通しのよい雰囲気保てた。 | 3.9 | A | データの共有化が進み、業務改善が進んでいる。引き続き相談しやすい職員室づくりを進め、課題解決への助言や業務分担が進み、チームで教育活動が展開できるように意識改革に努める。 | 定時退勤日の取組に大きな成果を上げられています。効果的な時間の使い方への意識が高くなるので、継続した取組をするべきである。 |
| | 適正な校務分掌の振り分けと協働体制 | | 3.3 | | | |
| | 何でも話し合える職員室の雰囲気づくり | | 3.7 | | | |

※評価の数値は、教職員の4段階評価(4・3・2・1)の平均値を表示している。